



## 鶴南キャリアプログラム

6月22日(木)に1年次生・3年生を対象に、Spiber株式会社の富樫修氏、菅原寛正氏、David Lips氏、Wei-Ting Chen氏の4名を講師に迎え、パネルディスカッション形式で講演会を実施しました。

「仕事において、常にワクワクできるかを大事にしている」「なるようになるから心配しなくてよい」など仕事や進路選択に関して興味深い話をしていただきました。



### 生徒の感想

- 国際的で柔軟な働き方をしているのが魅力的だと思いました。鶴岡から国際的に戦えるものを作っているのが素晴らしいと思いました。
- 私の身近で、環境に優しい製品を作っている会社があることを初めて知りました。海外の方々とともに蜘蛛の糸を元に服を作るといった面白い取り組みをしていて聞いていて楽しかったです。
- 間接的な方法で戦争をなくすことに繋がっていることに感動しました。
- 文系の知識を使って理系の開発に役立っているということを知り、将来の視野が広がりました。



## 地域活性化ゼミ

「地域活性化ゼミ」では、2年次生6名が地域の課題発見や情報発信をテーマに活動をしています。活動としては、一昨年から運用をしている「鶴岡まるごと」インスタグラムをひきつぎ、鶴岡の魅力を発信する活動と、イベントの企画をしてきました。年間のテーマとして「羽越線の利用促進」を掲げており、高校生の電車利用、交流人口の増加について考え、今は12月初旬に開催の利用促進イベントを企画しています。



高校生に電車を利用してもらうため、鶴岡駅から四駅離れた小波渡駅の近くの小波渡海岸での手持ち花火大会を企画しました。諸事情により開催はできませんでしたが、イベントを企画する難しさや楽しさを学べました。

伊藤 颯太(2-4)



### JR 鶴岡駅訪問

羽越線の利用拡大について、JR東日本で行っている利用促進の取り組みについて話を伺ってきました



### 市役所まちなかワークショップ

鶴岡市商工観光部の『つるおかまちなかワークショップ』に参加し、まちづくりのアイデアを考えました

私達地域活性化ゼミは、5月10日に鶴岡駅に伺い、JR東日本庄内統括センターの方から羽越本線の現状や、赤字回復のために様々な企画を行ってきたことについてお話を聞いて来ました。中間発表ではその時のお話を参考にさせて頂きました。佐藤 雅仁(2-4)

# 【地学ゼミ】サイエンス・デイ2023

7月16日(日)に東北大学で、学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2023が行われ、地学ゼミの生徒5名が参加して来ました。今年度のテーマである「VRプラネタリウム」の説明をしたり、インターネット望遠鏡の使い方の説明などを行いました。初めての対外発表の機会です。様々な事が手探りの状況の中、どう伝えればわかりやすいかを考えるいきっかけになりました。



東北大学で行われたサイエンスデイでは子供連れの方が多く、大人と子供に臨機応変に対応するのがとても難しかったです。中間発表ではもっと研究内容への理解を深め、質問などにもしっかり対応できるようにしたいです。

成澤 白葵(2-3)

ゼミが始まって初めての公の場での発表でしたが、多くの方に来て頂き、スムーズに発表することができました。また、天体に詳しい方にも来て頂き、自分の研究も深まりました。アドバイス等をたくさん頂いたので、参考にしながら今後の研究を進めていきたいです。

佐藤 大和(2-3)

## BRIDGE Across Asia 国際協働学習事業

### ユネスコ・アジア文化センター

#### 『BRIDGE Across Asia 国際協働学習事業』に参加

今夏8月と9月にインド・韓国・タイ・モンゴル・ベトナムの5か国の多様なバックグラウンドを持つ25名の高校生と、日本の高校生25名が英語を使って主体的・対話的な学びを軸とした国際協働学習が行われました。3回の対話型ワークショップ、「世界文化遺産の保護」をテーマにして各国の大使になりきったユネスコの模擬国連、東京での対面リフレクションの計6日間の内容でした。

オンラインでのディスカッション、最後の対面での活動を通して多くの学びがありました。同世代の高校生といっても英語圏の国に住んだ経験のある人や留学経験のある人なども参加しており、また国ごとに英語教育のカリキュラムが異なることもあって、個人での英語のレベルにはかなり差がありました。英語を流暢に話す参加者を見て自分の話す英語に自信が持てなくなり自分から話せなくなる場面もありましたが、英語の得意な子が手を振ってくれたり、日本人の子が翻訳してみんなに伝えてくれたりと、心温まる時もあり、英語のレベルに関係なく自分の言いたいことを表現し、理解してもらうことが大切なのだと感じました。世界文化遺産保護についてのプレゼンの際は、フィリピンの生徒とペアになり研究を進めましたが、方向性の違いから、相手がポスターのほとんどを書くことになってしまいました。そのため「2人で話し合っどどのような内容を書くか」などの計画を立てることが重要だと感じました。このプレゼンの協働作業を通して、今世界がどのような政策を行い、世界遺産を保存し継承しているのかということを知ることができた良い機会となりました。

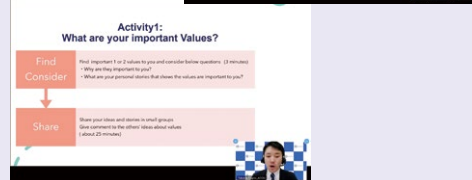
塩野 日和子(2-4)

2年  
塩野日和子  
選ばれた!  
25人の1人  
全国で



Today's schedule

Time	Activity	Location
14:30-14:45	Registration	11:00-11:15
14:45-15:15	Activity 1	11:15-11:45
15:15-15:30	Break	11:45-12:00
15:30-16:00	Activity 2	12:00-12:40
16:00-16:05	Break	12:40-13:10
16:05-16:40	Sharing	13:10-13:30
16:40-17:00	Break	13:30-13:50
17:00-17:30	Reflection	13:50-14:00
17:30-17:50	Announcement about the next session	
17:50-18:00	Closing	



# START2023

7月22日(土)山形県立東桜学館中学校・高等学校において開催された「START2023(国際英語プレゼンテーション大会)」に岩浪すみれさん(3年)が参加しました。この大会は、英語による探究活動の内容の発表を通して、英語力・コミュニケーション能力を伸ばし、多くの人に理解されること、理解することの大切さを実感し、グローバルな視点を育てることを目的として開催されています。色々と刺激を受ける大会ですので、次年度興味のある人はぜひチャレンジして下さい。



全国の高校からの多くの参加者、そして海外の方々とのオンライン交流と、普段の学校生活では得られない交流を行うことができました。テーマの動機づけから結論まで、常に貪欲な発表者の皆さんに強く刺激を受け、何にでもトライする積極的で前向きな姿勢が自分には必要だと気付きました。プレゼンにおいて意識したことは「聴衆と目を合わせること」。言いたいことが伝わっているかどうか、何か補足すべきことはないか、反応を伺いながら発表することが大切です。他の人の発表を見ると、身振り手振りが大げさな方が聴衆を引き付けると感じました。ポスター・スライド作成については、少ない時間の中で聴衆に強い印象を持たせるためには視覚でのアプローチが最も効果的だと思いました。私はピクトグラムを利用し、例えば“消費者”と“企業”の2つをカテゴリー分けしたいとき、その二者を文字ではなく「人」と「ビル」のピクトグラムにして配置したことが効果的でした。

岩浪 すみれ(3-4)

## 小中高『連携』!“鶴岡市小・中学校児童生徒科学・社会科研究物展”へ参加

### 自分の研究の幅を広げたい!「外」と関わると「世界」が広がる!

9月10日(日)に出羽庄内国際村において、鶴岡市の各小中学校の夏休み自由研究より選ばれた優秀作品研究物展が行われました。今年度初の試みとして、本校の研究もそこで発表する機会をいただきました。お互いの研究の成果を見て感じて刺激を与えあえるのでは、また来年度開校する致道館高校での探究の学びを地域の人々や小中学生にイメージして頂けるのでは、という思いから発表活動を行いました。午前90分と午後60分で、およそ60~70人の小中学生とご家族の方々が耳を傾けてくれました。

参加したメンバー & 研究物	生物Bゼミ	「蚕の昆虫食と糸の活用の両立について」	あやめ 菖蒲琴音
	生物Bゼミ	「色の組み合わせと記憶について」	阿部ももこ、和田栗
	地学ゼミ	「VRプラネタリウムを作ろう」	齋藤菜、榊原みゆう
	数学ゼミ	「鶴南サマースクール」	坂尾姫芽乃
	社会ゼミ	「食卓から見た世界の水問題」	伊藤美乃莉
	国語ゼミ	「『ほめる』単語や文章から見る言葉の面白さ(古典・日記編)」	深町玲維
	英語ゼミ	「Enjoy English! ~小学生に最適な英語の勉強法~」	みづの 壬生優里奈、五十公野可菜
英語ゼミ	「GPSを用いた英語教授法は中学生の英語向上につながるか」	福島咲綯	



### 参加した生徒たちより

#### いただいた感想より

かなりレベルが高い研究がありすごいと思いました。



ランダムに登場してくる大人・子どもに対し、フレキシブルに対応している南高の生徒さんのレベルの高さを感じました。

研究の組み立てがユニークで、楽しみながら研究しているのが伝わり、お話を伺って私たちも楽しく感じました。研究結果をぜひ聞きたいです。

研究としての形ができていて、動機やこれからの展望などすごいなあと思いました。ぜひ未就学児にも広めてほしいです。

回数を重ねるうちに自分にも相手にも分かりやすく聴きやすいスピードで発表をすることができました。待っているだけでなく自分から声をかけることも大事だと気付きました。

五十公野 可菜(2-5)

相手がどこの部分を理解していないかなど、相手によって知識の幅があるのでそこを見極め、相手に合わせた説明が必要だと思いました。研究に関する見せられる物を用意した方が分かりやすいと思いました。

齋藤 菜(2-1)

予想以上にたくさんの方が興味を持ってきてとても嬉しかったし楽しかったです。聴いてくれた方々に研究についてお話したことでより考えが深まりました。今日の経験を今後の研究・発表に生かしていきます。

阿部 ももこ(2-1)

高校生の研究発表は小学生にとって難しいかなと最初は思っていたけど、保護者の方々と一緒に見ていただき、さらに質問もしてくれて、研究のためになりました。私たちの考えていた視点とはまた違った視点からの疑問などを教えてくださり、研究の幅を広げられると思いました。

福島 咲綯(2-5)